

平成28年度 第2回北杜市立病院改革プラン策定会議会議録

- 1 開催日時 平成28年9月13日（火曜日）
午後3時開会～午後5時閉会
- 2 開催場所 北杜市役所 西会議室
- 3 出席委員 公認会計士、北杜市地域委員会連絡協議会会長、北杜市行政改革推進委員会会長、北杜市社会福祉協議会会長、北杜市国民健康保険運営協議会会長、北杜市消費生活研究会会長、塩川病院長、甲陽病院長
- 4 欠席委員 北巨摩医師会副会長、北杜市健康づくり推進協議会会長
- 5 事務局員 市民部長、塩川病院管理局長、甲陽病院管理局長、健康増進課長、塩川病院事務長、甲陽病院事務長、塩川病院総務課長、塩川病院医事課長、甲陽病院医事課長、市立病院担当 有限責任監査法人トーマツ
- 6 議 題 (1) 第2次北杜市立病院改革プラン 点検・評価について
 - ・塩川病院
 - ・甲陽病院(2) 北杜市立病院の現状と課題について
 - ・外務環境について
 - ・内部環境について(3) その他
- 7 公開・非公開の別 公開 非公開（理由：非公開の場合は理由を記入）
- 8 傍聴人数 0人

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事

議長：第1号議案『第2次北杜市立病院改革プラン 点検・評価』について事務局に説明を求める。

事務局：『第2次北杜市立病院改革プラン 点検・評価』について説明。

議長：意見・質問等を問う。

委員：受付してから薬をもらって帰るまでの待ち時間は5年前と比べて短縮しているか。

委員：あまり変わってない。9時から診療だが、医師によっては8時15分から診て早く終わるようにしている。

委員：甲陽病院は内科の常勤医が1名しかいないので、待ち時間は伸びてしまっているかもしれない。

委員：甲陽病院は看護師を7名確保したいところを3名増員とあるが、託児施設を設けることは考えていないか。

委員：以前利用希望の調査をしたが、2名しかいなかった。

委員：最近は何調査したか。若い人からの希望があるかもしれない。国は介護の療養型病床を無くす方向のようだが、甲陽病院はどうするつもりか。

委員：この委員会でご意見を伺いながら決めたい。

委員：現在、介護の療養病床にいる人はそのまま利用できるのか。

委員：自宅か、施設か、病状によっては医療の病床に移ることになる。

委員：地域包括ケア病床を作るのか。

委員：在宅復帰率が高いので割合を多くは作れないと思う。

委員：この資料の中に市立診療所が入っていないが。

事務局：病院に係る改革プラン策定なので、診療所は入院施設がないので今回は入っていない。

議長：議長の立場だが、重要なポイントなので教えてもらいたい。塩川病院は外来患者が減少傾向の要因は何か。甲陽病院は病床利用率が低調なのが気になる。院内ではどう分析しているのか。

委員：塩川病院の外来患者の減少は医師が減ったからであろう。特に内科医は5名いたが昨年は3人で病床を回していた。外来を診る数も減ってしまった。

事務局：甲陽病院は一般病床が86床あるが、医師や看護師が不足しているために稼働病床は60床としている。この部分については90%近い稼働率となっている。

議長：医療スタッフの不足の問題があるということだが、入院の要請はあるが、受け入れられないということか。

事務局：60床でも満床という時期はそれほどないので、要請を受けられないことはない。

委員：病棟を診れる常勤の内科医が1名しかいないので、あまり負担をかけたくない。4月～6月が空くのでこの時期を何とかしたい。医療スタッフが増えれば稼働病床を増やすことも可能だ。

委員：甲陽病院はベット数を削減する考えはないか。

委員：内科医が1名増えた場合、不足する。

委員：持ってる病床数が多いから稼働率が低くなってしまう。

委員：この会議で方向性を議論していただければいい。

委員：地域医療構想の中では急性期の病院は削減していくことになる。

委員：北杜市の人口も減ってきているので、そういうことも考えながらやっていかななくてはならない。

委員：医師や看護師が都会へ行ってしまう。今後もその傾向は続くのか。

委員：大学卒業した医師が自由に病院を選べるようになった。そうすると症例数が多く、勉強になる都会の大病院を希望する。

委員：病院に頑張ってもらって病床数を維持してもらいたい。

委員：本来は病床数を削減しなければならないが、実際は難しい。

委員：塩川病院は今の病床数を維持する。併設の老人介護施設をうまく活用していきたい。同居でキーパーソンがいない高齢者が多い。高齢者アパートを作って医師が往診するのがいい。

委員：病床数を確保したくても国が圧力をかけてくるのではないか。

委員：満床状態で必要とされている病床をすぐ減らせとは国も言わないと思う。

委員：一律に減らさなければいけないのかと思っていた。

委員：減らす努力をするようにとは言うと思うが、稼働している所を減らせとは言いづらいと思う。稼働してない病床をカットしていくのが自然の流れではないか。

議長：第2号議案『北杜市立病院の現状と課題』について事務局の説明を求める。

事務局：『北杜市立病院の現状と課題』について説明。

議長：意見・質問等を問う。

委員：両病院が全国で上位に位置していることに驚いた。医師をはじめスタッフに敬意を表したい。内容を広報でPRしたらどうか。市民も安心する。先ほど出た高齢者アパートを考えてみたらどうか。

事務局：アパートというのは何の制度に基づくものか。

委員：小規模・多機能のようなもの。

事務局：そうすると介護保険の対象になる。

委員：地域包括ケア病床をやるにしても、小規模・多機能を活用することで在宅復帰率が達成できる。

委員：新しい案が出たので早く研究したほうがいい。

委員：今、託児が24時間できる。一緒に託児所を設ければ職員が働きやすい環境になる。病院の退職者を活用するのもいい。

議長：今の話は病院を中心に在宅へ促す流れや、地域との連携をどうするかと深く関わってくる。今回、事務局からたたき台が提示されたので、両病院の立ち位置や役割、委員方の意見も踏まえながら構想を発展させていくのがいいのではないか。

委員：病院と住民の信頼関係、かかりつけの関係が大事だ。普段の状態がわかっていて、緊急の時はいつでも診てもらえること。それに加えて回復期も診てくれる体制がほしい。

議長：機能充実をという意見だが、事務局はどうか。

事務局：回復機能を今までとおりの急性期病床でやるのか、県が増やそうとしている地域包括ケア病床でやるのか、経済的効果を考慮しながらやっていきたい。ただ、少ない病床数でやると費用が掛かる。どちらかの病院にまとめて多めに病床を作るといような、病院間をまたいだ検討も必要だと考えている。

委員：追加の人員配置とは。

事務局：リハビリ職員や事務などの新たなスタッフを考えている。

委員：今いる職員でまかなえないのか。

事務局：そこまで今回は整理していない。今後検証が必要だと思う。

委員：甲陽病院はなぜ内科医を確保できないのか。確保できないなら人事交流したらどうか。そこが解決できれば甲陽はいろんな面で改善が図られる。

委員：回復期のリハビリテーション機能が両病院にはないので、作ってもらいたい。

議長：事務局には、初期原案を基に本日出た意見を参考に、肉付けしてもらおうということであるらしいか。

一同：了承

委員：資料の中で、今後、妊娠・周産期の疾病入院患者は減少するとあるが、人口を増やすためにもこのままで終わらせてほしくない。

委員：甲陽病院では来年から市の婦人科検診ができるようになった。

事務局：市でも昨年度から子育て包括支援センターを立ち上げ、助産師を雇用し活用している。北杜市には産める場所はないが、周産期の充実を図っている。

議長：第3号議案『その他』について委員に質問・意見等を問う。

一同：質問・意見なし。

議長：案件を終了

事務局：『今後のスケジュール』について説明。

4, 閉会

平成28年 月 日

議事録署名人 _____ 印

議事録署名人 _____ 印